

龔刻
牙氏

初學須知

田中耕造譯

五下

雜

一	四
二	一
學	滋
校	賀

雜
三

400
846
Vol. 8



初學須知卷之五下

動物學目錄

第三十一

旅魚

糟白魚

鱈魚

鱈

一種

第三十二

鯊魚

金鎗魚

鱈

第三十三

爬行動物

龜

玳瑁

第三十四

蛇類

蟒

大蛇

第三十五

蟻

響尾蛇

無血蟲

第三十六

蠶

蠶

蠶

第三十七

無血蟲

蠶

蠶

第三十八

蠶

蠶

蠶

第三十八 蜜蜂 蜜漿及黃蠟

第三十九 芫青 呀喃蟲及洋紅

第四十 穢

第四十一 蝗群 蝗害

第四十二 蠍及毒蜘蛛 夕ヲニクニ一此蜘蛛

第三十二 類

第四十三 牡蠣 青介 真珠

第四十四 海綿 珊瑚

博物學目錄

目錄畢 庚辰年五月下

氏初學類知卷之五下 田中耕造 譯

田中耕造 譯

佐澤太郎 訂

第三十一 旅魚 槽白魚 鰻魚 鰯魚 鰯魚 鰯魚 鰯魚

魚之冷血動物 呼吸器者非天頭之兩邊之腮

以呼吸之者非天頭之兩邊之腮 似之者了非

以呼吸之者非天頭之兩邊之腮 似之者了非

以呼吸之者非天頭之兩邊之腮 似之者了非

以呼吸之者非天頭之兩邊之腮 似之者了非

以呼吸之者非天頭之兩邊之腮 似之者了非

水ト直ニ相觸ル、其外面ニ外被ト存、ツラ硬
キ片板ノ如キ物アリテ之ヲ保護ス、心臟ヲ結構
モ亦哺乳獸鳥類ト異ナリテ、兩室兩耳ナク唯一
身一室アリテ各機關ヨリ還歸スル所ノ靜脈血
即、之ヲ過キテ、腮ニ趣ク、腮ニ於キテ生氣ヲ得、
赤色之動脈血トナリ、外ル者ハ、心臟ヲ經スシテ
直ニ各機關ニ運行ス、魚モ亦卵生ニシテ一産ニ
卵ヲ生ズルコト甚多キモノナリ
今下ニ掲載スル魚ハ、諸方ニ旅游シ或ハ移住
或ハ機關ヲ結構ス殊異ナル者ニシテ、特ニ著ル

キ者數類ニ過ギザルナリ、
旅魚ノ主ナル類ハ、**糟白魚**、**鰻魚**、**鰈**等ナリ、
糟白魚ハ極近海ノ魚ナリ、**鰻魚**ハ數萬大群ヲナシ
テ暖國ノ海洋ニ来リ、六月ノ頃ニハ遂ニ**蘇格蘭**
ノ海岸ニ達ス、此時海中ニカク又ニ銀色ヲ現シ
テ數里ノ間ヲ掩フニ至ル、是ヨリ幾多ノ小群ト
ナリ、**英蘭**ニ諸濱ニ旅游シ、再合シテ大群トナ
ル、大西洋ニ通過シテ**亞墨利加**ノ海岸ニ着ス、爾
後其各灣諸出口等ニ旅出シテ卵ヲ生ズ、遂ニ
ト北亞墨利加、**北亞墨利加**ニ所及ス、故處ニ歸ル、斯

夕遠游スル際ニ魚介海鳥及漁夫ニ掠獲セラレ
 テ命ヲ失ヒ生ヲ奪ハルニ者幾萬尾ナリ其知
 知時トシテハ其全群ヲ漁獲スルコトナラズ然
 レモ造化ノ巧妙ニ由ル其卵ヲ增生スルコト夥
 シキヲ以テ幸テ此珍魚ヲ食テ其類ヲ絶滅スル
 ニ至ラズ蓋シ尾ノ糟白魚ニシテ年餘々六萬
 尾ノ多キヲ生スルナリ其他凡テ弱小ノ間ニ於
 テ天大ニ暴掠ノ災ニ罹ルベキ魚介ハ亦皆此ノ
 如ク大ニ繁殖ス即、鰈ノ卵ハ三四百萬ニ及ブガ
 如キ是ナリ佛朗西ノ漁夫等ハ糟白魚ノ佛朗西

近海ニ来ルヲ待タカシテ遠ク蘇格蘭ノ海岸ニ
 往來使之ヲ漁スシカク此方ヲ更ニ高度ノ海
 洋至リテ之ヲ漁獲スルナリ
 鰈亦糟白魚ニ比スレ不甚小ナリ是モ亦毎歲大
 群ヲ結ビテ海洋ヲ旅行ス然レモ地中海ニ於
 キテ多少之ヲ見ル故ニ糟白魚ニ比スレハ更
 ニ遠ク南海ニ来ル者ナリ糟モ亦密群ヲ成シテ
 五月ノ頃大西洋ヨリ地中海ニ入り遂ニ加達魯
 尼亞地名不爾薩佛朗西地名熱那以太利近海ノ
 灣内ニ充滿ス通常夜間之ヲ漁ス其法漁者船ニ

乘山船首二於其子火以燃之然鱸火光可視云未
 集天是二於其子之ヲ網ス各網中能ク數千尾又
 漁獲ス此大田也
 漁獲ス夏初ヨリテ十月又十月ノ沙洲ヲ於キテ之
 ヲ漁之八月ノ末ニ至リテ漁夫各其國ニ帰ル或
 然尚漁ス之キトキ八更ニ遲ク歸ルトキトキ毎
 歳漁夫所所ノ鱸魚ヲ平均スルハ大約二千五百
 萬或ハ三千萬尾ニ及ブ既キ之ヲ漁獲スレバ直
 三其頭ヲ去ルテ之ヲ屠割シ塩ヲ以テ體久内外
 布布夕來ルハ其味ハ酸ク又酸ク蘇子蘭ノ味也

鱸魚ハ肥大ナル者ニ性テ赤道近傍及中帶ノ
 諸海ニ産シ六月ノ頃ニ至リテ地中海ニ入ル不
 爾鱸魚ハ海産魚中ノ最モ大ニシテ其味甚濃ニシテ大ニ滋養ノ功ヲ
 有シ網中ニ能ク七八百尾ヲ漁獲スルモ其味甚
 濃ニシテ其肉ハ味甚濃ニシテ大ニ滋養ノ功ヲ
 有シ或ハ其鮮肉ヲ食フ或ハ脂油ヲ浸シテ之ヲ畜
 ヲシテ其味甚濃ニシテ大ニ滋養ノ功ヲ有シ
 鱸魚ハ金鱸魚ニ比シテ大ニ滋養ノ功ヲ有シ
 河上河下ヨリ動百里以上ヲ遠キニ至ル河下ノ
 鱸魚ハ其味甚濃ニシテ大ニ滋養ノ功ヲ有シ

鮭モ亦遠ク川ニ洑ル魚ナリ、時ニ瀑布ニ登ルコ
 日初以、其卵ヲ産ミ、其卵ニキハ、清澈ナル小川ニ來
 産シ、終ニバ復去リテ海ニ入ル、卵既所化生ス
 ルバ亦下リテ海ニ入ル、故ニ鮭魚ノ殊ニ夥シキ
 河口ニ其卵ヲ往來ニ洑ル、其卵能ク二三千尾ヲ
 産メ、其卵既所化生スルバ亦下リテ海ニ入ル、故ニ鮭魚ノ殊ニ夥シキ
 竹籠魚、鯉、鮠、カ、此ノ等ノ如キ川魚ヲ捕ル
 此ハ大抵網羅ヲ用井、或ハ釣漁ス、然レドモ、其ノ
 魚ノ如キ、亦火把ヲ燒キテ之ヲ漁ス
 ルコト、其魚類ニ皆鮮肉ニ食ハル、其魚ノ如キ、亦火把ヲ燒キテ之ヲ漁ス

第三十二 鮫魚

引水者

鮫魚第百八圖ハ海魚中最猛惡ニシテ最殘害ヲナス
 者ナリ、熱國ノ海ニハ大抵口ニシテ最殘害ヲナス
 時ニハ地中海ニ入りテ暴掠ノ欲ヲ逞シクス、長
 大抵四メートルニ至五メートルナリ、或ハ七メ
 ートル又ハ八メートルニ至ル者モ亦之ヲ見ル
 コトアリ、其口巨大ニシテ怖ル、口内兩頤ト
 上齧ノ穹隆トニ齒牙ヲ及合シテ六列ニシ、其齒
 牙ニハ根ナキヲ以テ、能ク自在ニ之ヲ後方ニ俯
 伏シ、又能ク自在ニ起立シ、以テ口内ニ入ル、其

第百八圖

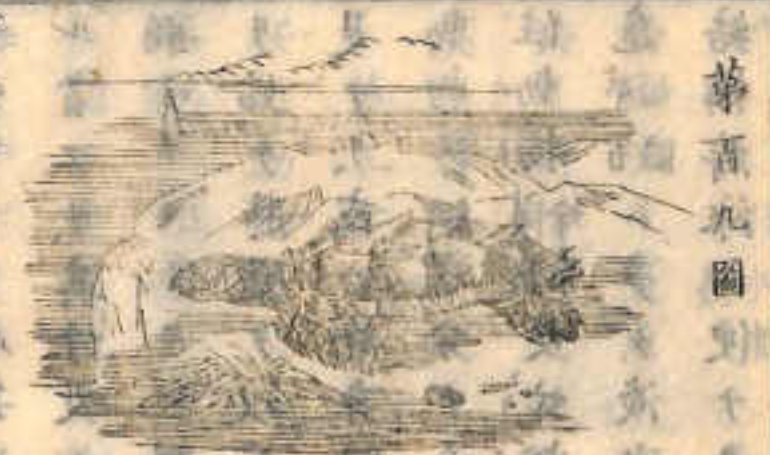


餌食ヲシテ逃出スルコト能ハ
 サラシム、其口吻上部より孔似
 前下ニ突起スルガ故ニ、餌食
 嚙取スル時ハ、身ヲ傾覆シ腹
 ヲ友サシテ口トヲ得ズ、其餌食
 ヲ嚙取モシトスルトキハ、泳游
 ノ疾速ナルコト飛矢ノ如ク且
 巨口ヲ哆開シ兩眼ヲ輝カス、其状見ル者又シテ
 戦慄セシムルナリ、
 南亞墨利加ノ海岸若ハカリ
亞非利加 近海ヲ航

スル船舶ハ、餌食ヲ食ハ、又ハ注意セズテ浴スル
 投棄スル餌物ヲ食ハ、又ハ注意セズテ浴スル
 舟夫ヲ食フコト屢コレアリ、舟夫ヲ浴スル者、又
 誤リ海ニ落ル者又持ニ吞マレシトシ、鯨
 魚ノ腹ヲ横友シ時、船上員身急ニ繩索其取
 之ヲ引擧クテ其厄ヲ救フコト能ハドモ、多クハ
 其繩索ヲ下ヌコト遅クシテ救フコト能ハザル
 アリ、若游者小刀ヲ携ワレテ、自沈没シ、鯨魚ノ
 下ニ出テ、之ヲ刺殺スルコトアリ、其時、鯨魚ノ
 鯨魚モ亦鯨ノ如ク燈火ニ供スベキ脂油ヲ出ス

此如許水者ハ長大約三十サ千山ト此ノ
 小魚立リ、鯊魚ト同處ニ於キテ之ヲ見ル鯊魚ト
 共ニ游行スル口ト最多ニ蓋、鯊魚ヲ食餌スル
 處ニ導キテ之ヲ示スナラシメ、其處ニ
 第三十三、爬行動物、龜、瑤瑁、其
 爬行動物ハ大抵皆四肢ヲ具有スル、其肢皆
 脇側ニ附着スルヲ以テ步行スルカラズ、腹ヲ地
 ニ附クテ爬行スルニアラサレ、前進スルニ上
 體ガサレ、其中或ハ後肢ヲ缺ク者アリ、全ク
 肢ヲ有クサズ者モ亦多ク、蛇類是、因リ哺乳獸ノ

如ク心臓ニ四腔分ル者アリ、或ハ兩室連合シテ
 一囊トナリ、心耳ハ離レ室ト耳ト合シテ三腔ヲ
 ル者アリ、其呼吸ハ肺臟ヲ用ル者最多ク、其
 弱小ナルトキハ腮ガ以テ呼吸シ、成長スルニ至
 リ始テ肺臟ヲ以テ呼吸スル者アリ、其如ク即
 是ナリ、或ハ終身腮ヲ以テ呼吸スル者アリ、其
 動物ノ綱ハ分チテ四目ト云、龜、蜥、其水陸兩
 住動物、其及蛇類是、其及四脚ノ
 龜、其多ク淡水若ハ鹹水内邊ニ生ケ、其足
 結構游泳ニ便ナリ、卵ヲ沙中ニ産キ日光ヲ温ク



借カテ破殼重シク其體固ニ
 骨板内ニ坐骨板及邊
 緣皆相照付テ頭尾四肢ノ出
 入孔ヲ存スル者ハ若シ
 テ侵害スル者ハ其體固ニ
 肢ヲ縮メテ骨板内ニ隱匿ス
 故ニ骨板ヲ破碎スルニ及
 サズバ其體ヲ出スコト能
 ズナリ
 玳瑁ハ龜ノ脊ヲ被覆スル骨板ヲ以テ製スル者

ナル其法先骨板ヲ剥皮熱湯ニ浸シテ柔軟
 匠師ハ履ハ平ハ口ハ或ハ屈シ其曲
 ル者ニテ匠人ノ需用ニ應スルナリ其既ニ温熱
 シテ柔軟トナシタル者ハ之ヲ糊付スルコトヲ
 得ベシ之ヲ以テ諸玩具筐匣扇櫛等ヲ作ルコト
 玳瑁ノ屑粉モ亦利益アリ之ヲ熔解シテ片板ト
 ナシ各種ノ用ニ供スルコト猶天然甲ヲ用ル
 如長肉ノ以テ美和ノ類ニテハ其
 龜ノ脊甲ハ皆玳瑁ヲ製スルキコトアラズ類ニ由
 リテハ之ヲ製スルニ適サズル者以テ特ニ玳瑁

作ルニ用井ル者ハ、亞非利加東近海に居ルハ
 此ト名ツクハ、海龜ニ類カク、其肉ヲ以テ美味ノ羹ヲ製スベキ者アリ、殊
 ニ「トルチユ」ハ、此ト佳トス、是ハ、亞墨利加以産
 ナリ之ヲ捕獲スル益、海中ニ居ル諸ハ、鰐ヲ殺シ、
 海岸ニ在ル者ハ、之ヲ顛覆シテ起ルコト能ハサ
 ラシムルナリ、
 第三十四人 鰐 魚
 鰐 魚 百 鰐 鰐 同目ノ動物ニ急ナ其類多シ 亞
 墨利加ニ居ル者ヲ「カ」ト云フ、安日河 度

此者ヲ「カ」ト云フ、其體ト稱シ、尾羅河 利加 鰐ヲカ
 夫ガト云フ、云フ、鰐身ト長ハ
 一ト、此ト連ル者アリ、其口
 臣大ニ開テ、其形ト見ル者、
 尖齒ヲ露出ス、兩眼相接近、
 其血色ヲ含ミ、其形ト見ル者、
 シカ戦慄ス、陸上ニナリテ、
 以飛行ニ似ル如キナリ、
 ナ右、白華變ス、其形ト見ル者、
 此トモ水中ニ在リ、天ハ、游泳駿



其類多シ 亞墨利加ニ居ル者ヲ「カ」ト云フ、安日河 度

速ニシテ運轉極メ天自在ナリ、卵ヲ産スル時、又
ハ海産草木ノ蔭ニ蹲踞シテ、渴シテ飲ヲ求ムル
人、並ニ獸類ノ來ルヲ待テ、之ヲ襲フ時ニテラ
ザレバ、殆海岸ニ近ヅクナリトナシ、其卵ヲ産スル
ハ、一産ニシテ百ノ多キニ至ル然レドモ造化主
多ク之ガ敵ヲ設ケテ、其卵ヲ食ハシメ、若ハ其脱
殻ノ後猶小弱ニシテ、鱗甲脆薄未堅硬ナラザル
トキ、早ク之ヲ殺サシムルガ故ニ大ニ繁殖スル
患ナシ、若ク之ヲシテ盡長生セシメ、甲介堅剛トナ
リテ銃丸モ之ヲ貫クコト能ハザルニ至レバ、其

人害ヲナスコト測知スベカラサルベシ、並非利
加ノ黒奴ハ、好シテ鱷卵ヲ食ヒ且其肉ヲ食フ、肉
ハ臭氣甚シクシテ、歐羅巴人ハ之ニ堪スルコト
能ハズ、其臭氣ヲ嗅ギ以テ鱷ノ接近スルヲ認知
スルニ至ルナリ

第三十五

蛇類

蛇

蜂

無毒
大蛇

蛇類ヲ分テ二トス、其一ヲ無毒蛇トス、筋力頗
力皆甚強剛ナルヲ以テ怖ルベシト雖亦毒アル
者ニアラス、其一ヲ有毒蛇トス、此蛇若嚙噬スレ
バ瘡口ニ劇烈ノ毒ヲ注入シ、動モスレバ死禍ヲ

招クコトアリ

蛇ト蟒トハ無毒蛇ニシテ、トコノヘ響尾蛇トコノヘガスヒ、トコノヘ響尾蛇ノ一類ニシテハ有毒蛇ニ属ス、トコノヘ響尾蛇ハ害ナキ爬行動物ニシテ、鼠野鼠、鼯鼠等ノ如キ有害ノ獸ヲ驅捕シテ、大ニ人ノ益ヲナス者ナリ、然ルニ佛朗西ノ農夫多クハ誤リテ之ヲ殺ス、蟒ハ蛇類中ノ最大ナル者ニシテ、其長十五、ト此ニ達シ、大或ハ肥大男子ノ股ニ等シキ者ナリ、餌食ヲ咀嚼スルコトナク、自己ヨリ大ナル者ト雖、亦其全體ヲ嚥下ス、餌食ヲ見レハ突進シ、數

重之ヲ圍繞シテ絶息セシメ、次ニ動揺摩擦シテ臭涎液其全體ニ塗リ形容以變ズルニ至リ、周圍此ヲ輪ヲ解キ、大口ヲ開キ咀嚼セズシテ漸ク之ヲ嚥下ス、其頤骨ノ動キ易キニ由リ氣異常巨口ヲ哆開スルコト自在ナリ、故ニ能ク北山羊、綿羊等ヲ食フコトアリ、其甚シキニ至リテハ、牡牛トコノヘ小弱ナル者ヲ吞ムコトアリ、トコノヘ巨大ナル物ヲ吞ムトモハ全ク其勢力ヲ失ヒ、其食ヲ所食者久シク頤内ニ止リテ、急ニ腹部ニ下行セサルヲ以テ、頤大ニ膨脹シテ復嚥下ス

作用ヲナスコト能ハズ、消化至難ナル所也、
 遂非麻痺ヲ發シテ、臘者、手ニ落ツルコト亦
 其麻痺ノ時日ハ定期ナシ、或ハ二三週日ニテ
 止ムコトアリ、或ハ數月ノ久シキニ及ブコト
 第三十六、蝮 響尾蛇、山
 蝮一圖、ハ蛇ニ比スレバ小ニシテ、體形短ク、頭
 ハ扁平ニシテ、三角形ヲナシ、腹ハ黒クシテ、皮面
 ニ菱形ノ斑點アリ、尾モ亦短キヲ以テ、蛇ト區分
 シ易シ、上齧ニニク、長牙アリテ、自在ニ伏スベク

亦起スベシ、而シテ各牙ニ一溝アリ、其一方ハ
 牙ノ尖端ニ至リ、一方ハ劇毒ヲ含メル膜囊ニ達
 以テ、毒ヲ注スルコト能フ、第百十一圖

蝮ハ熱國及寒暖適度ノ
 國ニ住ム者ナリ、漸北ニ
 至ルニ漸減シ、佛朗西
 國北方ニ於キテハ之ヲ
 現ルコトナシ、更ニ北ニ



及ハハ絶ニ示カズ、乾燥荒漠ノ土地、沙中岩石上
 叢林ノ周邊ニ最多シ、其毒ハ最恐ルベキハ、七月

河内學頭 卷五下 十三

十月月... 蝮_ニテ麻酔_シ、暖氣_ノ候_ニ至_レバ、始_メテ出_テ、
其體_ヲ日光_ニ曝_シ、且、小蟲_ヲ捕獲_シテ之_ヲ食_シ、
蝮_ハ元_来入_ヲ見_レバ逃匿_ス、然レドモ人之_ヲ激
怒_シ若_ハ足_ヲ以_テ之_ヲ履_メバ、大_ニ憤_リ咬傷_シ
テ林叢_ニ退去_ス、若_シ此災_ニ遇_ハハ、急_ニ瘡處_ノ上
部_ヲ緊索_シテ、先_ニ其毒氣_ノ速_ニ蔓延_{スル}ヲ防_ギ、
小刀_ヲ以_テ瘡口_ヲ截開_シ、能_ク之_ヲ吮_フベシ、之
ヲ吮_フ時_ニ其毒_ヲ傳染_{スル}モクニテラズ、既_ニ
吮_終ラバ、諸母_ニ垂_テ瘡口_ニ注_入シテ後_ニ灰汁_鹽

水若_ハ食鹽水_ヲ浸_{セル}布_ヲ以_テ縛帶_ヲ施_スベ
シ、若_シ炎熱_ノ日_ニ於_キテ咬傷_セラル_レバ、毒氣更
ニ酷烈_{ナル}カ故_ニ、紅熾_鐵ヲ以_テ瘡處_ヲ焚灼_セ
テシ_バア_ルベカラズ、
佛朗西地方_ニ於_キテハ、蝮毒_ニ因_リテ死_{スル}コ
ト稀_{ナリ}、人獸_共ニ其毒_大抵治_シ易_シ
響尾蛇_ハ亞墨利加_ニ産_ス、其尾端_ニ骨質_ノ連環
アリ、天_毎歲_夜シ脱落_{スル}時_ニ其數_ヲ増_ス、爬行_ス
此_トキハ此連環_相觸_軋ス、陸續_鈴如_ク響_音
ヲ發_ス、此_ニヨ_リテ其接近_{スル}ヲ知_ルカ_リ、且、一

蠶之始ヲテ破殼ニ中トキハ、其形淡黒色ハ小軟
 蟲ノ如クニシテ、頭ハ黒色ナリ、之ヲ飼養スルニ

以常ニ白
 第百十二圖

桑ノ葉ヲ

用洋紙、白

桑ノ葉ハ

蓋ノ大ニ

諸ノ所食

者ナリ

大約一箇



月半ニ至テ大ニ成長シ其始メテ破殼スル時ニ

此幼虫ハ更ニ大ニ成リ、五寸倍或ハ三寸

倍ニ及テテ、其後ハ暫時發育セヌテ、一

箇用洋紙ノ間ニ其發育此ノ如ク

速ニ上テ、其後ハ暫時發育セヌテ、一

日間ハ樹木等ニ倒懸シテ麻懸ルルナリ、白

青蟲既ニ全ク成長スルハ或ハ枝止ニ登リ或ハ

紙筒ニ入り、或ハ小枝ニ求テ附者ニテ、其體白

出テ、所ニ蟄居スルニ其體ニ周圍ニ烏卵ノ如ク

殼ヲ作り、其身を被覆スルニ成リ、青

...

蠶最細の變形 結子無血蟲 其形屢變ニテ後ヲ
 出テ、褐色肥沃ヲ蠅ヲ如クニ見テ、翼并ニ足ハ縮
 疊テ體ニ附着シ再全ク麻睡ス、之ヲ名ツケテ
 繭ハリ又ニカ云フ、七日又ハ八日ヲ經レバ、第
 二ハ變形ヲ決シテ殼ヲ破リ、夜蝶ノ如ク白色ノ
 大蝶ニ化ス、然レトモ兩翼猶小ニシテ、其肥大ノ
 體ヲ支ケル力ナク、飛颺スルコト不能スレテ、殼
 殼セテ所ヲ徐行スルニ過キス、其卵ヲ産スルハ
 即、此時ニアリ、既ニ卵ヲ産ミ終レバ、雌雄共ニ食
 此不仁ヲ死スルヲ見、其狀ハ、（以下省略）

繭絲ヲ紡績スレバ絹ヲ得ルアリ、蠶卵其斤量一
 キロカラキハ以テ、繭一千三百五十クラン、
 絹絲百三十三、然ラニハ、獲レ急之ヲ收獲シ多
 キ者ト然ルハ、（以下省略）
 華三斗命、（以下省略） 蜜蜂、（以下省略） 及黃蠟、（以下省略）
（以下省略） 一名蜜蟲ト云
 又古語リ人ニ利益ナル物ニ、（以下省略）
 品ヲ産ス、固ク蜜漿ト名ツク、（以下省略）
 害ナク、天清涼ス効アリ、（以下省略）
 又黄蠟ト名ツク、以テ蠟燭ヲ



牙...
 其...
 又...

蜜蜂ノ頭ニハ、吸器アリテ花ノ液汁ヲ吸フ、其液汁ハ蜜蜂固有ノ分泌機ニ由リ、變シテ蜜漿ト爲リ、黄蠟ト爲ル、蜜蜂ハ其黄蠟ヲ用カテ數箇ノ小窠ヲ作りテ之ニ蜜漿ヲ藏ス、



蜜蜂ハ二箇ノ針ヲ隱匿シテ護身ノ具トナス、之ガ爲ニ螫サルレバ劇毒ヲ起ス、然レトモ死禍ヲ招クニ至ラズ、痛楚烈シクシテ患處大ニ腫起スルコトアリ、
蜜蜂ニ螫サレタル時ハ、先、瘡中ニテ此毒針ヲ抜

去ルベシ、假令全ク抜去ラズトモ、遠ニ剪刀ヲ以テ之ヲ切斷シ、膜囊内リ毒液ヲ輸送スル路ヲ絶シ、
其後醋ヲ混和シテ水若、以テ食塩ヲ溶解シ、
タル水ヲ以テ患處ヲ洗淨スベシ、清水若、ハ橄欖油、甘扁桃油等ノ如キ脂油ニ、
諸母尼亞ヲ溶解セシメテ之ヲ洗フモ亦可ナリ、
蜜蜂ハ野生ノ家畜トヲ論ゼズ、常ニ群ヲ成シテ生活ス、之ヲ名ツクテ蜂隊ト云フ、
其窠ノ自然ニ成レル者トハ、
由ル者トハ、
拘ラス、之ニ居ル者三様アリ、雄蜂、雌蜂及中蜂、
雄ニアラズ亦雌ニアラズハ、

一名狂蜂是也、其窠外ハ飛散シテ蜜漿ヲ釀ス、
ハキ元質ヲ索取シ、及窠ヲ構フ所等ノ勞ニ任ス、
此者ハ工蜂ナリ、雄蜂ハ工蜂ニ比テ其數甚
少ナク、其體更ニ肥大ニシテ針ナシ、其久シク窠
内ニ於キテ生活スル者ニアラス、一箇月又ハ二
箇月ヲ經シバ、工蜂之ヲ殺シテ其屍ヲ窠外ニ投
棄ス、蜜蜂ハ一隊中ニ雌蜂ヲ推シテ主トスルヲ
見、若雌蜂ノ數多クレバ必相争闘殺傷シテ、遺ル
所ニ一雌蜂遂ニ其隊ヲ女王トシテ出ナリ、時ニハ
一隊ニ二雌蜂アリテ窠ヲ兩分レ、各其黨ヲ率非

身別居スルヲ好ム、夫亦コレゾリ、雄蜂ハ
年終ハ黃蠟ヲ以テ六隔壁ヲ設テ數ハ室ヲ構成
ス、之ヲ蜜窠ト名ツク、蜂王是處ニ於テ卵ヲ産
ス、一雌蜂産産出スル卵、一歳數千多キニ及ブ、
其生子ニ食ヲ與ヘ、全ク成長シテ蜂ト為リ自由
ヲ得ルニ至ラシムル者モ亦工蜂ナリ、又ハ
蜜蜂ノ窠ヲ構フルハ法規甚嚴ニシテ彼此群ヲ
分チテ主務ヲ任シ、一群ハ外ニ出テ花ノ液汁
ヲ求メ來リ、一群ハ内ニ於リテ窠ヲ營ス、又一群
ハ粉ヲ運輸分配スル等ノ事ヲ司ル

牙
十八

蜜窠ヲ奪取スルニハ、毒針ノ螫害ヲ避ケレガタム
ニ、ヨロシク厚キ硬布ノ衣ヲ製シ、顔面并ニ手ヲ
包ムベシ、但、其眼製ニ於キテハ、預、注意シテ目視
ヲ妨グルコトナク、亦運動ニ易カラシムルニ、又
蜜窠ヲ取ルニハ、簡法アリ、其法紙屑又ハ布屑
ニ火ヲ點シテ杖端ニ結着シ、之ヲ窠口ニ入レテ
薰マベシ、斯ニスルハ蜂皆其烟ヲ避ケテ窠頂ニ
逃レ、蜂王ノ周圍ニ蟻集レテ之ヲ護衛ス、益、薰シ
テ烟ヲ窠内ニ満タシムレバ、蜂皆哽咽シテ復飛
散スルコト能ハズ、空ニテ翅ヲ鼓スルノミ、此時

蜜窠ヲ取レバ毒螫ノ患ナシ

蜂隊ヲ新チ相分離シテ、他窠ニ轉移セシムルコ
トアリ、其方法左ノ如シ、蜂隊ノ一群花汁内索ル
ルガ夕メ、其外出スルニ方リテ、窠内ニ遺シル蜂
又、薰烟シ、其窠ヲ他所ニ移シテ窠ヲ仰置シ、別窠
ヲ取テ正シク其止ニ俯合シ、下部ノ窠ヲ微鼓
スルガ、蜜蜂皆女王ノ共ニ上部ノ別窠ニ移リテ
其頂ニ登ル、是ニ於キテ下部ノ空窠ヲ故處ニ還
置スレハ、曩ニ外出セル蜜蜂必、歸リテ復之ニ入
ル、又別窠ニ轉移スル蜜蜂ハ、室中ニ蜜窠ノ蒸キ

ヲ見[?]直ニ新居ヲ構成ス
人為ヲ以テ斯ク蜂隊ヲ
蜂ノ大[?]蕃殖スルニ及ビ、互ニ分離セシムルヲ欲
テ兩黨相爭鬪ス、其敗レテ窠外ニ出ル者、遂ニ
遠ク踪跡ヲ失ハルル處ニ逃去スル患アリ、
蜂隊ヲシテ分離爭鬪スルコト抑カテ止ムル
欲セバ、一窠ノ蜂數ヲシテ二万乃至二万五千に
過ギシムベカラズ、二万或ハ二万五千以内ノ窠
窠ヨリ釀作スル蠶量ハ、一日ニ大約五百カヲシ
ル

蜜窠ヨリ蜜漿ヲ出スニハ、先、小刀ヲ以テ黃蠟ノ
蓋覆内ニ在ル所ノ蜂窠ヲ刺ス、之ヲ刺セバ漿汁
滴出ス、之ヲ純粹ノ良蜜トス、次ニ蜜窠ヲ碎キテ
再、滴出セシム、其蜜ハ初回得ル所ノ者ニ比スレ
バ、濃クシテ品味モ亦下レリ、第三次ニ至レバ、碎
窠ヲ壓搾シテ蜜漿ヲ出ス、其品ハ又大ニ劣レリ、
舍利別、藥味麩包殺粉ニ藥味ト蜜漿トヲ製シ、亦
下劑煎藥ニ用ヰルナリ、
既ニ蜜窠ヨリ蜜漿ヲ榨出スレバ、其黃蠟ヲ取リ
テ熔解セシメ、布ヲ以テ之ヲ濾過シ、其錯雜セル

牙
卷五下
二十

穢物ヲ除去シ、模型ニ入レテ扁板トナス、之ヲ粗
 製蠟ト稱ス漆ヲ製スルニ用井、又塗蠟トナシ或
 ハ板床ニ光澤ヲ付スル等ノ用ニ供ス、粗製蠟ノ
 黄色ヲ除去スルニハ、撥闕ヲ用井分割シテ條ノ
 如キ薄片ト為シ、日光ニ晒シ空氣ニ觸レシムル
 ナリ、此ノ如クスルコト數週日ニ及ベバ變ジテ
 純白トナル、又佛朗西ノ化學家ベルトレトノ說
 ニ從ヒテ、生麻生木綿ヲ晒スガ如ク格魯林ヲ用
 井、暫時ニシテ能ク黃蠟ヲ清白スルコトヲ得ベ
 シ、白蠟ハ彫工之ヲ以テ各樣ノ模範ヲ製ス、亦以

蠟燭ヲ製スベシ、但白蠟ヲ以テ製スル者ハ、燭
 甚速ナリト云、
 第三十九 芫菁カサネ、呀喃蟲ヤナン及洋紅ヤウキウ
 芫菁ハ佛朗西フランス南方ニ多シ、大群ヲナシテ黍皮
 樹乳ノリ、香料等ヲ掩覆スルニ至ル時ニハ佛朗西國
 中、ノリ於キテモ亦之ヲ見ルコトアリ、西班牙及
 以太利イタリア於キテハ、之ヲ收獲スルコト甚多シ、製
 藥舖ニ於キテ選用スル者ハ、即西班牙及以太利
 ノ芫菁ナリ、角質ノ翼ヲ以テ膜翼ヲ被覆ス、之ヲ
 名ツケテ外翅トウシト云マ、光輝鮮明ナリ、此蟲ハ劇

牙カ學類
 卷五下
 廿一
 文部省

烈辛刺ナレ思臭ヲ放ツガ故ニ一樹ニ夥シク集
マル下キハ其臭氣鼻ヲ撲チ、遠隔ノ地ヨリ此蟲
集マルコトヲ認メ知ルヘシ神經銳敏ナル人
茲此臭氣ヲ吸入スレバ、或ハ劇烈ナル熱病ヲ發
シ、或ハ極ノ危篤ヲ疾ヲ起シ往々之カ為ニ大害
ヲ招クコトアリ、芫菁ノ大ニ群棲セル樹下ニ寢
卧スル人ハ、此災ニ罹ルコト殊ニ多シトス
芫菁ヲ乾カシテ粉末トシ、少量ヲ取リテ激烈ノ
興奮劑ニ加入スルコトアリ、此蟲ノ劇烈ノ効能
アル實質ハ、其體ノ局部處ニアルニアラズ、全身存

セザル處ナリ且其體死ストモ亦効能ヲ失フコ
トナシ、芫菁末ヲ以テ護泡膏ヲ製シ、皮膚ニ貼シ
テ刺衝ニ水泡ヲ發シテ醗膿セシムルナリ、
呀嚙蟲ハ俗ニベトトアホシシウ上ト稱スル者
ト同種ノ小蟲ナリ、殊ニ墨斯哥ノ霸王樹ニ多シ
土人故サテニ霸王樹ヲ作りテ此無血蟲ヲ飼ス
此蟲ハ濃褐色ニテ體ノ大、類粒ニ等
シキ者尤別途ニ養ハルニテ、類粒ニ等
霸王樹ハ列ヲ正シク之ヲ植ウ、其培養甚簡易ニ
シテ、唯其近傍ニ蔓生スル惡草ヲ刈去セバ足レ

民不道多... 卷五... 廿三

リトス、十月ニ至リ、藤絲ヲ以テ巢ヲ霸王樹ノ葉
上ニ作り、之ニ雌ニエニ呀喃蟲數羽ヲ置キ、其産スル
所ノ卵忽脱殺シ、莖ハクナラズシテ、皆能ク成長
シテ、燕血蟲ト為ル。各蟲ノ卵ヲ産スル其數甚夥
シ故ニ暫時ニシテ數千カ、呀喃蟲ノ霸王樹ノ葉
ヲ同見ルナリ、其收穫ハ四時各三四ニ至ル、其之
ヲ採聚スルニハ、先、鈍刀ヲ以テ霸王樹ノ厚葉ヲ
摩シテ蟲ヲ落シ、地ニ積ミテ之ヲ殺シ、次ニ爐火
ニ上セテ之ヲ乾カス、既ニ乾ケハ變シテ黑色堅
硬ノ小粒ト為リ、復其生活セシ時ノ取状ナシ。

洋紅ト名ツクル美色ノ染料ハ、此乾呀喃蟲ヲ以
テ製スル者ナリ、畫料ニ用キル紫及深紅色ヲ製
スルモ亦然リ、其類ヨリ本ナキ
始メテ呀喃蟲ヲ歐羅巴ニ輸入セシハ、第十六紀
一千五百〇一年ヨリ一千六百年ニ至ルノ間、即
我紀元二千一百六十二年ヨリ二千二百六十年
間ノ初ニテ、佛朗西ノ移民地亞非利加阿爾及ノ地名
ニ於キテモ亦近時此蟲ヲ畜飼ス、此ニ由リテ頗
利ヲ得ルト云フ、其類ヨリ本ナキ

第四十五 蟻
蟻ニモ亦三様アルコト、蜜蜂ノ如シ、雄蟻雌蟻中

牙ノ學頁四 卷五下 廿三

性蟻一名工蟻是ナリ、雌蟻ハ同類ヲ生殖スルコトヲ司リ、工蟻ハ群中諸蟻ノ用ヲ辨シ、蟻巢ノ材ヲ採集シテ之ヲ構造シ、及初生並ニ成長兒ニ食物ヲ供給スル等ノ務ニ任ズ、工蟻ハ常ニ勞動ニテ止マズ、其行キテ食ヲ索ムルニ一線ヲカス、其一線ハ蟻巢ヨリ發シ、一線ハ歸リテ蟻巢ニ入ル、常ニ相接續スルナリ、穀粒ノ如キハ力ヲ盡シ廻轉シテ之ヲ輸送ス、時ニ其體ヨリ大ナル者ヲ廻轉スルコトアリ、藁并ニ草木ノ芽人如キハ、相集マリ負擔シテ運行ス、其蟻巢中ニ遺レル工蟻ハ

其間ニ隧通ヲ開キ之ガ支柱ヲ作り、且初生子ノ食料ヲ藏スル倉ヲ造リテ絶エテ操作スルナリ、蟻ハ專糖質ヲ食フ、故ニ大群ヲナシテ室中ニ藏スル甘蔗糖蜜漿等甘味ノ物ヲ掠去スルコト屢コレアリ、又薔薇樹、桃樹、槭樹、扁桃樹等ニ貼付スル小蟲ノ木虱ト名ツカル者ヲ捉ルコト甚、巧ナリ、其之ヲ捉ルハ取テ其體ヲ食フニアラス、唯其體ニ塗レル糖質ヲ舐ルノミ、木虱ハ其脱殻スル時ヨリ、一枝一葉ノ上ニ貼付シテ、殆動移セザルカ故ニ蟻ノ之ヲ捉ルコト甚、容易ナリ

人皆蟻ハ大ニ種藝ヲ害スト云フト雖蟻ノ自樹
葉ヲ食フニアラス却リテ樹枝ノ皮ヲ剥ガセト
ル他蟲ト争闘スルナリ且自果實ヲ損傷セ
蜂蟻守ノ如キ他ノ無血蟲ノ先來リテ果實ヲ傷
ツクルニアラサレバ取テ之ニ近ツクコトナレ
然レトモ巢窟ヲ樹根ニ作ランガタメニ地ヲ穿
テ樹根ヲ剥キ其甚シキニ至リテハ隧道ヲ開キ
寒將ニ至ラントスレバ蟻皆巢窟ニ蟄伏レテ昏
睡シ其捕獲セシ所ノ木虱モ亦同シク昏睡シテ

冬間ハ蟻之ヲ食スルコトナレ蟻ノ食物ヲ貯蓄
スルハ冬間ノ食ニ供スルニテ蟻ノ食ヲ
蟻トシカレ蠶ノ小説冬ニ至リ蠶各就コト蟻ニ食ヲ
テ食ハバヲ與ヘザリシ朝リハ其譬諭寓意ハ善ナレ
トモ蠶蠶ハ秋既ニ死シ蟻ハ冬間昏睡スルノ事
實ニ違ヒテ小児ヲ教スルニ大害ナリ我輩ハ此
ノ如キ謬誤ヲ説クヲ好マサルナリ
第四十一 蝗群ノ蝗害
西里亞埃及波斯其他總テ亞細亞ノ南方及亞非
利加ノ北部ニ於キテハ洪水並ニ火災ニ等シキ

牙
利加ノ北部ニ於キテハ洪水並ニ火災ニ等シキ

大禍ニ遇フコトアリ即蝗蟲ノ災是ナリ蝗蟲大
 群ヲ成シテ飛来リ空ヲ掩ヌニ當リテハ忽チ下
 テ耕地ヲ傷シ樹木ヲ害シテ残ス所ナシ遂ニ地
 面ニ滿布シテ數里平方ヲ掩覆ス既ニ盡楮色ト
 ナセバ復進ムテ他處移リ隨ヒテ害ヲ隨テ進
 ム至ル處傷害セザルコトナク翅聲轟々恰雷
 如ク樹木皆葉芽ナク復野ニ綠色ヲ見ス其景況
 恰歲冬ノ候ノ如ク其一地方ヲ去リテ他ニ赴カ
 ントスルトキハ層々高飛スル者幾千萬其空ヲ
 塞キ大陽ノ光ヲ蔽遮スルコト恰黒雲ノ蕩スル

方如シホトナク其災大ニ數ニテ其災甚
 蝗群ノ害ハ此ノ如ク甚シケレ故也幸ニ其
 来ル所中甚稀ナリ其来ルハ多ク冬月ハ温暖ト
 ル翌歳ニ南吹是冬日温暖ナレバ沙漠中ニ在ル
 所ノ蝗卵悉脱殻成長シテ群數大ニ増加シ沙漠
 中ノ食物ヲ以テ其大群ヲ養フニ足ラザル故
 ニ飛散シテ鄰近ノ邦土ヲ鹵掠スルナリ其
 蝗群ハ暴掠ヲ制止センガタリ其雜草若ハ濕藁
 ヲ燒キテ其進路ヲ薰烟ニ或ハ深墮ヲ穿チテ行
 路ヲ遮斷スルコト能ク巧ニニ障礙ヲ通過シテ

防禦金々無益ヲ屬スルナリニ對シテ其害甚大
 西里亞及埃及ニ於テハ蝗ノ大災ヲ遇スルコト
 屢ナリ然レドモ時トシテハ南風及東南ノ風吹
 來リテ蝗ノ大群ヲ遠地ニ吹送リ海ニ投ズルコ
 中モ亦コレノ火其屍ノ無數漂流スル者殆海濱
 次小灣ヲ埋ルルニ至ルト云テ其害甚大也
 佛朗西ノ南地モ亦蝗蟲ノ暴掠ヲ免ルルコト欲
 ス就中不爾温薩ニ於テハ殊ニ甚シトス一
 年六百廿三年ニ嘗テ其ノ人近傍大ニ其殘害
 元罹ルシコトアリ農夫力ヲ竭シテ之ヲ屠殺シ

禽鳥等亦之ヲ捕食スルモ遺ル所ハ卵數三千
 升ニ及ビ各升ノ卵數ヲ平均スレバ大約二百萬
 枚ニ達スル也其害甚大也
 亞細亞地方ニ於テハ旅蝗災害ヲササマシテ
 却リテ食料ヲ供ス國人欲籬ヲ以テ蝗蟲ヲ捕獲
 心之ヲ鹽醃シテ乾カスコト猶佛朗西ノ鱈魚ノ
 如シ鹽蝗ハ亞細亞人ノ甚嗜ム者ニシテ貿易ノ
 要品ナリ是レ故ニ其ノ人皆其ノ且無益也
 第四十三 蠍及毒蜘蛛
 是夕ラレテニ一此
 珠

手ノ... 卷五下... 七

蠍及蜘蛛ハ之ヲ無血蟲ノ綱ニ合併シテ記スル人多クレドモ、其實ハ綱ヲ異ニスル者ナリ、蜘蛛ハ無血蟲ニ比スレハ足ノ數多ク且無血蟲ハ氣脈ト名クシテ管ヲ以テ呼吸シ、尿管ヲリ空氣ヲ全身諸部ニ輸送スレドモ、蜘蛛ハ別ニ肺臟アリテ呼吸スル者多ク用スル氣管ハ尿管ニ異ナリ、蠍ハ體長五ニテ、刺^{トリス}トシテ如ク甲介アリテ其外面ヲ被覆ス、尾ハ六環ヨリ成リ、其端末ニ堅硬トシテ尖クタル鈎ノ如キモノアリ、其根抵ハ劇毒ヲ含有スル一囊ニ連接ス、足ハ五對アリテ、其

前ノ一對ハ夾剪ヲ具有ス、蠍ハ其類多シ、體拾ノ大小ナカク強弱トシ由リテ類ヲ異ニス、新舊兩大陸ニ於キテ皆之ヲ見ル、其螫毒ハ猶蛇類ノ螫害ニ罹ルカ如ク、而シテ氣候愈炎熱ナルハ其毒モ亦從ヒテ劇シ、平居岩石ノ下ニ潜スル者ナリ、佛朗西ノ不爾溫薩西班牙以大利等ノ如キ歐羅巴熱地ニ於キテ見ル所ノ蠍ハ其長六州ニテ一トトシ又ハ八州ニシテメ一トトシニ過タル者稀ナレドモ亞非利加ニ産スル蠍ハ二十五州ニテ一トトシ若シテ三十州ニシテメ一トトシハ長キニ及

ハ者ノ其螫毒ノ以ヲシテ死ニ至ル具ハル也
ト猶響尾蛇毒ハスヒ之類ニ至ル者ナリ毒ノ如
シト千馬ノハ人ノ心ヲシテモ人ノ心ヲ
蜘蛛ト毒虫ホスル説ハ大ニ誤リ其假令他國ハ
蜘蛛ハ害ヲホスコト由テハトモ佛朗西地方ニ産
スル者ハ決テ毒スルコトナシ然レモシテハ
蜘蛛ノ如キハ人皆劇毒アリトシテ大ニ怖ル
ク者主レトモ是モ亦取テ人ニ迫ルコトナシ偶
々ハ螫ストモ之カ為ニ死ヲ拍クニ至ラス其螫
毒ハ其部分ニ輕症ノ燃衝ハ發スルコト蜂螫ノ

如キ言過キク而シテ其燃衝ハ盪水若ク諸母昆
亞水ヲ以テ瘡處ヲ洗淨スレバ輒々愈ユルナリ
若ク又此ノ如クシテ尚愈ユガレバ發泡膏ニ龍腦
ヲ和シテ之ヲ痛所ニ貼スベシ其毒ハ
蜘蛛ハ其體ノ大ニシテ醜貌ナル者モ亦怖ル
ニ足ラザレドモ窖中ノ大蜘蛛ノ如キ暗濕ノ地
ニ居ル者ハ其螫毒ニ罹レ薄皮ニ數點ノ痕迹
ヲ遺スユトアリヨロシク避ケテ近クコトナ
カルベシ
第十四三 牯犢 靑介 真珠

牙... 廿九

牡蠣ハ軟體動物ト名カラル者ニシテ、其體ノ結
搆全ク魚類ト異ナル者ナリ

牡蠣ノ始メテ生ズルトキハ、甲介立タレテ海中

ニ浮漂スレテ其後直ニ岩石ニ貼付シテ其體

ヨリ石灰質ヲ生ジ、二重ノ甲介ヲ造リテ其内ニ

隱匿ス其體ハ大ニシテ其體ハ亦種々

牡蠣ヲ捉ルニハ、鍬匙ヲ用ヰテ其岩上ニ粘付

セル者ヲ剥取シ、之ヲ牡蠣池ト名ケタル透明鹽

水ノ池ニ移テ、此池ニ入ルレバ、其海中ニアリシ

時ニ含有セル鹹味ヲ失ヒ更ニ美味ヲ生ズ、海中

ニアル時ハ大抵皆鹹味アルモノナリ

カキカトルマラン皆佛朗西オーストリア白耳

地名義ノ地等ノ牡蠣商賈ハ有名ナリ、牡蠣ノ綠色ハ牡蠣

池ニ於キテ生ズル者ニシテ、池中ニアリテ飼フ

所ノ餌物ニ因ルナリ

海産ノ介類ハ其甲介ノ裡面ニ、堅牢ニシテ滑カ

ナル白色ノ厚層アリテ、虹色ノ光彩ヲ發スル者

甚多シ之ヲ稱シテ青介ト云フ、其中貿易品ニ供

スル者ハ、此種ノ青介ナリ、地中海ニ於

キテ此軟體動物ヲ見ルコトアレトモ、亞細亞

キニ此軟體動物ヲ見ルコトアレトモ、亞細亞

諸海ハ特ニ多シトス、工人其刀ヲ以テ青介
 ヲ掩テ所ノ粗質ヲ削去リ、食下ニ數珠ニ用テ
 品小匣、鉛錫等ノ如キ各種ノ小器ヲ製造スル者
 真珠ハ青介ノ同質ニモテ、是モ亦同ノ類ニシテ種
 々壯蠅白即分泌スル者アリ、真珠ヲ生スル祭類
 體中ニ他物混入シテ局所ヲ奮興シ、其分泌ヲ
 止テ益強勢ヲラシム、其真珠ハ一ノ小體ヲ中心
 卜ニ之ヲ纏繞スルヲ球九ヲナスナリ、其體ハ
 真珠牡蠣真珠ヲ産スル牡蠣ハ錫蘭島ノ海岸ニ多シ、之ヲ
 採ルハ每歲二月三月又四月ニ於キテス、漁者各

其採ル所ハ牡蠣ヲ藏ムルハ囊ト繩トシテ手持
 込、人ヲ引テ船上ニ立チテ其繩端ヲ握テハ其繩
 二他人ヲ握レル繩ニ結付タル石ヲ抱キテ海底
 三沈ム、潜留スル四十分時ニシテ能ク許多
 ノ牡蠣ヲ獲ルハ繩ヲ引キテ之ヲ報ル、船中人
 此報ヲ得テ速ニ之ヲ拽キ上テ其力ハ、船中人
 互ニ交代シテ、斯ク水底ニ沈ムト其日費五六
 十圓程及力、而シテ漁者ノ水底ヨリ浮出スルニ
 方リ、其耳並ニ鼻車リ出血スルコトヲ掃ナリ、其
 云、其勞苦亦至ル、其ト謂フニシ、其採ルハ牡蠣ヲ

真珠ヲ有セザル者ハ、直ニ之ヲ海中ニ採集シ、真
 珠ヲ含ム者ヲ選取シテ、集メテ一窟前滿テ磨ル
 手真珠ヲ出スナリ。或ハ、水邊ニ、
 白魚アケレヲ捕トシ、又ハ鱗ヲ以テ真珠ヲ質造シ
 又貿易品ニ供スルコトナリ。其法白魚ノ鱗ヲ取
 リ、諸母尼垂ニコ、以テ之ヲ溶解シ、真珠色ノ塊トナ
 シ、模型ニ入レテ細粒トスルナリ。又、
 第四十四、海綿ウニニ珊瑚ウニ、
 海綿ウニ、
 第四十、
 其形状種々ニシテ、奇異ナル者亦
 多ク、水生生物ニシテ、殊ニ海中ニ於キテ之ヲ見ル

世人ノ最選用スルハ、海中ニ産スル者ナリ。蓋其
 大ニシテ形状ヨロシク、其纖維ニ彈力アリテ強
 韌ナルヲ以テ、大ニ有用ナレバナリ。四蹄線近海

第百四十圖



ニ産スル海綿ハ、甚大ニシテ
 且、甚美ナリ。多島海ニ於キテ
 モ亦多ク之ヲ見ル。淺海ノ岩
 石ニ寄生ス、之ヲ用キルニハ
 先、流水ヲ以テ能ク洗滌シ、之
 ニ附着セル動物并ニ他ノ穢
 物ヲ浄去シテ後、格魯林ヲ用

井晒シテ之ヲ白クスルナリ
珊瑚ハホリーニ樹ニシテ、ホリーニ名ツケル
純質ノ小植蟲ノ相共和シテ棲ム者ナリ、其形樹
木ニ類似シ、幹ハ粘質物アリテ堅ク、岩上ニ粘着
ス、其體ハ石灰質ニシテ、赤色ナル者アリ、又薔薇
色ナル者アリ、表面ニ巨多ノ小孔アリテ、各孔ニ
ホリーニ數多棲住ス、其石灰質ヲ分泌シテ珊瑚
樹ヲ作ル者ハ、即此ホリーニナリ、而シテ膜皮
如キ者アリテ樹ノ全面ヲ掩被シ、之ニ寄生スル
小動物ヲ聯合シテ、相共和シテ其裡ニ同居セシ

ハ、故ニ一蟲食物ヲ得ルトキハ、諸蟲相分チテ共
ニ之ヲ食フナリ

珊瑚ハ通常岩石ニ附着シ、其形樹木ヲ倒置セル
ガ如クニシテ、幹ハ上ニアリテ枝ハ下ニ垂ル、之
ヲ採取スルニハ、二條ノ鋏根ヲ十字形ニ結合シ、
羅網ヲ其下ニ張リタル者ヲ用非ル、此鋏棍ヲ以
テ珊瑚ノ樹根ヲ碎破スレバ、幹枝折レテ網中ニ
落ッ、乃其器械ヲ引キ舉ゲテ珊瑚ノ得ルナリ
珊瑚ハ地中海ニ多シ、寶玉工之ヲ以テ許多ノ珍
器ヲ製ス、古來珊瑚ハ靈徳アリテ、能ク邪術魔法

牙
世
三

防美、亦能夕眼病等更治ヌルト云、是陰、蓋說
 ニシテ據ル所ナシ信云ベキ者ニ以テ世々大
 清氷世信、狩野良信、
 同
 初學須知卷之五下終

明治九年九月十九日翻刻御印
 同 十月 刻成發兌

京都府平民
 出版人 田中清兵衛

上京第五區寺町通四條一丁目
 二百十七番地

京都府平民
 出版人 佐々木惣四郎

上京第六區寺町通姉小路上一
 五百四十番地

